



# 海外の浄土真宗事情

## 第10回 ネパール開教地について

ネパール開教地は、その歴史はまだ比較的浅いものですが、現在カトマンズ本願寺を拠点として法話会だけでなく献血や古着の配布、車椅子の無償交付、無料の健康診断、日本語学校など様々な活動を行っています。しかし、カトマンズ本願寺は初めから寺院の形を取っていたわけではありません。その前身は「グリーンライフ研究所ネパール」という社会福祉事業を行うNGO法人で、福岡県北九州市の本派寺院門徒の向坊弘道氏むかいぼひろみちにより一九九二（平成四）年に設立されました。

向坊氏は、二十歳の時に自動車事故で全身不随となりますが、それが縁となり浄土真宗に出遇であわれます。そして世界各国を巡るなか世界中に念仏の道を伝えたいと願うようになり、西洋の人々に伝えていくことができる場としてネパールにNGOを立ち上げ、社会福

祉事業を展開する傍らかたわら、私的に開設した研修兼宿泊施設にて青少年向けの仏教伝道活動を行っていました。活動を続ける中、参加者が増加し活動が拡大するに伴い、より大きな施設が必要となったこと、また二〇〇三（平成十五）年にネパール政府から正式に伝道活動の許可が得られたことから、浄土真宗のみ教えを現地の人々に伝えるため寺院建立の計画が進められます。

同年、首都カトマンズ市内に土地を購



カトマンズ本願寺外観





日本語学校

の志は受け継がれ募財及び建設事業は継続され、二度の中断を挿みながらも二〇一四（平成二十六）年カトマンズ本願寺が完成します。しかし、道のりは決して

入し本格的に建設事業に着手しました。向坊氏が私財を投じてネパールに寺院を建立するという計画の趣旨に賛同する支援者の方々を中心に募財活動が始まります。氏は二〇〇六（平成十八）年に逝去されるも、そ



向坊氏とソナム氏

て順調と言えるものではありませんでした。完成を可能にしたのは、ソナム・ワンデイ・ブテイヤ氏と向坊氏との出会いでした。

ソナム氏はインドの南シッキムの出身で幼少時よりチベット仏教の僧侶として修行を積んできていたのですが、一九九八（平成十）年、ブツダガヤを訪れた際に向坊氏と出会い念仏の教えと出遇います。向坊氏の説く他力の教えはこれまで

自らが修めてきた仏道と全く異なり、最初は戸惑いつつも幾度か話すうちに強く惹かれるようになり、同年故郷のシッキムを離れネパールへと移住し、グリーンライフ研究所の活動に従事するようになります。そして、研究所が若者にとって積尊の教えを聞くことのできる場所となるよう、さらなる社会福祉活動を展開していったのです。このような活動を通じて仏教に興味を持つ人々への伝道が進められました。そして、四年間の学びの後、氏は浄土真宗に転向することを決めるのです。

一方、ネパールでの新規開教を目指す宗派からは、開教使の養成と寺院建設費助成の両面で援助が始まります。この人材養成の一環として、二〇〇二（平成十四）年、ソナム氏が宗派留学生として中央仏教学院にて修学し、得度・教師を授与され二〇〇四（平成十六）年開教使に任用されました。正式に開教使としてネパールにおいて開教活動に務めることとなります。さらには、二〇〇六（平成十

## 情報コーナー



地震後の物資配布支援

八)年七月、宗派より開教地指定を受け、同月ソナム開教使が開教事務所長に任ぜられます。そして同年八月には宗派からカトマンズ本願寺設立の承認を受け、正式に浄土真宗の寺院として発足する運びとなりました。ネパール初の浄土真宗寺院の誕生です。

この間もカトマンズ本願寺の建設事業

及び募金活動は継続しており、宗派からも建設事業への助成金をいただきますが、資材の高騰などから資金不足が起り二度の工事中断を余儀なくされます。しかし前述の通り、二〇一四(平成二六)年カトマンズ本願寺が完成いたしました。これを受け、前門様ご親修での落成きょうざん讃法要の計画が進む中、二〇一五(平成二七)年四月、ネパールはこれまでに経験のしたことの無い大きな地震に見舞われます。幸いにも、カトマンズ本願寺の建物には大きな被害はなかったのですが、ネパール各地で大きな被害がありました。日本国内外から多大なる支援金・義援金をいただき、カトマンズ本願寺として各地へ物資を届けたり、コミュニティなどの要望に応じて学校及び寺院の再建に取り組みつつ、法要の準備を進めました。そして二〇一六(平成二八)年三月六日、前門様ご親修にて日本からの多くの参拝をいただくなか落成讃法要をお勤めすることができました。また、ネパール最初の帰敬式ききょうしきでは、前



地震復旧支援事業 (学校建設)

門様よりネパール語でご教諭をいただき、法名ほうみょうを拝受した若いメンバー二十名の慶よろこびびもひとしおでした。

こうして多くのご支援のもとカトマンズ本願寺という活動基盤が確立されたことに感謝しつつ、ネパール開教地は社会貢献に寄与しながら一層の伝道活動に励んでいく所存です。

(ネパール開教地開教事務所)